

## つくばね vol.26no.4

## ● 目次

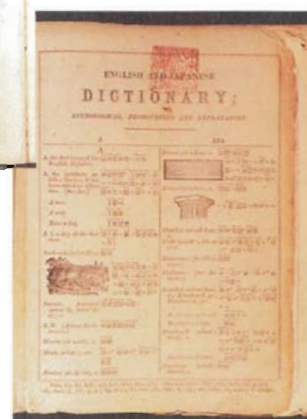
- 1 文科系研究者による電子図書館の構築
- 3 本学教官寄贈著書紹介／私の一冊
- 5 電子ジャーナルの利用に関するアンケート調査の結果について
- 7 図書館便利マップ
- 10 附属図書館開館日カレンダー
- 11 国立大学図書館協議会シンポジウム・  
関東地区国立大学附属図書館職員研修会
- 14 図書館実務研修を終えて
- 15 とびつくす／掲示板

## 文科系研究者による電子図書館の構築

加藤 行夫

コンピュータの高性能化と急速な普及に伴い、全国・全世界の文献情報が次々と電子化されつつあるのは、とくにわれわれ文科系の研究者にとってありがたいことである。インターネットを通じて、居ながらにして国内外の貴重な資料や研究論文が閲覧できるメリットは計り知れない。しかし、言うまでもないことだが、これらのデータは、広く公共の利用に供するものとして、誰かがどこかで入力しなければならない。わが筑波大学も電子図書館の発展めざましいが、裏方では日々地道な作業が重ねられていることを知っていただきたく、ここにその一部を紹介したい。

平成8年度、当時の図書館長であった北原保雄教授（現学長）が代表となって、「人文科学・教育学文献の書誌情報および画像データベース」の名称のもと、文部省の科学研究費を申請、認可され、入力作業が開始された（実質的な采配は、当時の洋書データベース係長であった茅根邦子氏による）。この対象となった文献は、中央図書館の1階にある洋書と和書、つまり東京高等師範学校、東京文理科大学、東京教育大学が所蔵していた図書約20万冊である。このなかには、岡倉文庫（英語・英文学）を始め、乙竹文庫（教育学）、コメニウス文庫（教育学）、三宅文庫（歴史・考古学）



等、個人の収集になる特殊文庫や稀覯書も多く、その資料としての価値は他大学に類を見ない。

プロジェクトは、引き続き科研費の補助を受けて継続中（「写本・板本の書誌情報及び画像情報データベース」）で、現在、和本・漢籍の入力を残し、洋書の書誌情報に関してはデータ化が完了している。この部分こそ、すでにしてわれわれが多大な利益を得ているところで、これが成される前は、図書館利用者が「Tulips」で検索できる文献は昭和48年以降のものに限られており、それ以前のことを知りたければ旧態依然とした目録カードを繰るしかなかったのだ。それが一挙に探し当てることができるようになったのは大いに喜ばしいことだが、それにも増して、本学の充実した文献情報が国立情報学研究所（NII）の提供するNACSIS-CAT経由で、全国の研究者の幅広い要請に応えられるようになったのは誇ってよいことだろう。

こういった作業のなかから、われわれは、先に挙げた岡倉由三郎の個人蔵書のなかに江戸時代末期から明治・大正にかけて刊行された古辞書が多数含まれていることに注目し、「筑波大学図書館所蔵古辞書データベース作成」という企画を新たに立ち上げ、今年度の学内プロジェクト補助金が認められた。岡倉文庫が明治初期の英和辞典・和英辞典等、英学史の研究上欠かすことのできない資料の宝庫であることはつとに知られていたが、しかし、これらは余りに貴重であるがために管理・保存上の問題から日常的に手にとって見ることは難しかった。そこで、これらの古辞書を画像として電子的に入力し、ネットワークに載せて各自のコンピュータで活用できるようにするわけだが、それが実現すれば、辞書に関する研究のみならず、文学・語学の研究全般に多大な貢献ができるはずだ。

たとえば、俗に「近松の悲劇」のような言われ方がするが、これらの辞書を引けば、近松の同時代に日本語の概念として「悲劇」は存在せず、それが定着したのは比較的新しいという事実がすぐわかる。江戸末期、文久2年に刊行された『英

和對譯袖珍辞書』によれば、「Tragedy」の訳語は「哀歎ノ歌、ソノ芝居」となっており、続いて明治6年に柴田昌吉・小安峻同訳として刊行された『附音挿圖英和字彙』の同個所は「悲戯（ヒギ）、凶事、慘酷（サンコク）ノ事」で、まだ「悲劇」ということばが現われない（ちなみに、この『附音挿圖英和』で「Comedy」は「滑稽戯（ダウケシバキ）」）。それが、明治37年の Earnest Masōri Satow & 石橋政方の An English-Japanese Dictionary of the Spoken Language (3rd ed. Kelly & Walsh) では「higeki」、明治45年の入江祝衛『詳解英和辞典』で「悲劇」、とようやく現在の表記が見られるようになるわけだが、これらの辞書がすべて岡倉文庫に揃っているのだ。

諸外国にはデータベース化された古辞書がインターネット上で利用できる例はすでにあるが、わが国では日本語という入力上の壁があって古辞書に関してはデータベースの存在どころかまだ試みすらない。また、こういった辞書は、学問的価値は大きくとも、商用にならないため出版社等が手がける可能性は今後も皆無で、全国に先駆けてこれを筑波大学が始めることの意義は極めて大きい。

データベースの作成に際しては、ページ全体をそのまま画像処理し、辞書項目を索引として別途入力し、コンピュータのディスプレイ上で現代の辞書と同じように引けるようにする。まず最初に上記の『附音挿圖英和字彙』を試験的に入力するが、将来的に複数冊の辞典を同時に開いて画面上で容易に比較検討できるようにしたい。閲覧しているページの必要箇所を画面上の他の論文原稿等に貼り付けて引用することも容易になるはずだ。これらの活用法は研究者たちに実り多い成果をもたらすだろう。平成12年度単年で95万円という金額では構想のすべてを実現することはできないが、このプロジェクトが軌道にのれば、さらに補助金を申請して入力を継続してゆく予定である。

（かとう・ゆきお 文芸・言語学系教授）



## 本学教官寄贈著書紹介

平成12年9月～平成12年11月に寄贈を受けた本学教官の著書を紹介いたします。

(敬称略, 寄贈者五十音順, [ ] 内は配架場所と配架番号です。)

### 井田仁康 (教育学系)

- ・世界を巡って地理教育：国際理解への扉を開く。二宮書店, 2000 [中央 375.33-I18]

### 及川武久 (生物科学系)

- ・A threat to life : the impact of climate change on Japan's biodiversity / Akiko Domoto ...[et al.] IUCN, c2000 [中央 468-D85]

### 岡崎章 (芸術学系)

- ・感性評価 = Evaluation of kansei 3. 原田昭, 2000 (筑波大学感性評価構造モデル構築特別プロジェクト研究組織研究報告集：1999) [中央, 中央本学, 体芸 704-Ts66-3]

### 門脇厚司 (教育学系)

- ・現在の子どもがわかる本 / 久富善之共編著. 学事出版, 2000 [中央 371.4 -Ka14]

### 戴玉才 (農林学系)

- ・中国の国有林経営と地域社会：黒竜江国有林の展開過程. 日本林業調査会, 2000 [中央 651.13-Ta21]

### 中内啓光 (基礎医学系)

- ・免疫学早わかり講座：基本から病態までのやり直し免疫学!. 羊土社, 2000 [医学 491.8-N43]

### 宮崎和夫 (現代語・現代文化学系)

- ・近世のスコラ学 / 上智大学中世思想研究所編訳. 平凡社, 2000 (中世思想原典集成：20) [中央, 体芸 132.08-J57-20]

### 宮寺晃夫 (教育学系)

- ・リベラリズムの教育哲学：多様性と選択. 勁草書房, 2000 [中央 371.1-Mi71]

### 門田安弘 (社会工学系)

- ・原価計算. 税務経理協会, 2000 [中央 336.85-Mo32]

### 渡辺章, 山川隆一 (社会科学系)

- ・労働時間の法理と実務 / 筑波大学労働判例研究会著. 信山社, 2000 [中央, 大塚 366.32-Ts66]

## 私の一冊

門脇厚司

「現在の子どもがわかる本」

門脇厚司・久富善之編著 (学事出版)

[中央 371.4-Ka14]



最近、新聞を開くと、ほとんど毎日のように、

高校生が「人を殺してみたくて」といって通りがかりの家に入り込み老女を殺したとか、中学生がクラスメイトを脅して数千万円のお金を巻き上げ豪遊していたとか、小学生が覚せい剤を買うため強盗をしたといったニュースが飛び込んできます。テレビのニュースやワイドショーなどをみても同じです。中学生が先生に注意されてキレ、ナイフで刺し殺したとか、高校生の男女が遊ぶ金欲しさに共謀し、タクシーの運転手を殺したといった事件が目には飛び込んできます。

こういうニュースや事件を毎日のように目にしたり耳にしたりしてしていると、大人たちは「一体、最近のコドモやワカモノはどうなっているんだ?」と訝ることになります。また、小学生、中学生、高校生をわが子にもつ親たちや、彼らの教

育に携っている先生たちは、「ウチの子は大丈夫だろうか?」「わがクラスの子たちも、そのうち何かやらかすのでは?」と不安に駆られることとなります。「わが国の子どもたちは、本当に変わったのだろうか。」「変わったとしたら、どこがどう変わったのだろうか。」

日本教育学会という学会は、日本の教育学者たちがお互いの研究を高めるために情報交換したり共同研究したりすることを目的に組織されている団体で、現在3,000人ほどの会員がいます。教育学者が教育に関する事柄の専門家だとしたら、当然、先のような大人の疑問や親や先生たちの不安に応える責任があります。その責任を果たそうと、学会では5年前から研究グループを組織し、「変化する社会と子どもの異変」というテーマで研究を続けてきました。その成果を一冊の本にしたのが本書です。本のタイトルは「現在(いま)の子どもがわかる本」です。本のタイトルは内容を表します。「この本を読んで、最近の子どものことがよく分かった。」という感想を多くいただいています。子どもが分からないと思っている人には是非一読してほしいと思います。併せて、私の単著である『子どもの社会力』(岩波新書、660円)も読んでほしいと思います。そうすれば、あなたも“子ども通”になれること請け合いです。

(かどわき・あつし 教育学系教授)

## 中内啓光

### 【免疫学早わかり講座】

—基本から病態までのやり直し免疫学!—

中内啓光著 (羊土社) [医学 491.8-N43]



エイズの出現以来、免疫という言葉がしばしば新聞をにぎわすようになった。とくに最近では臓器移植の際の拒絶反応や花粉症アレルギーなど、免疫が話題になる機会が増えている。医学部在学中から免疫学に興味を持ち、研究を続けてきた者として喜ぶべきことなのかもしれない。ところが残念なことに免疫に関する最近の話題の多くは、人間にとって不都合な免疫反応である。そのため、免疫があたかも悪者のように考えられてしまっている。しかし実際には免疫の語源が「疫」病を「免」れることに由来するように、免疫系は人間をあらゆる感染症から守る極めて大事な仕組みなのである。他人からの移植臓器も自分の体ではないのだから、免疫系がこれを排除しようというのは当然のことである。また、花粉症にしても、免疫系は花粉という非自己の物質を体から排除するという、いわば与えられた業務を忠実に遂行しているにすぎないのである。それでは何百万以上あるだろうと考えられる外からの侵入者を免疫系はどのようにして認識し、自分と区別し、攻撃して排除するのか? この実にユニークで巧妙な免疫系の仕組みを明らかにしようというのが免疫学である。この仕組みを理解し、コントロールすることが可能になれば拒絶反応や花粉症を治療することも容易なはずである。

本書では免疫学の基本的な仕組みがどのようにして明らかにされ、また病気とどのようにかかわっているかをわかりやすく紹介することを第一の目的としている。もともとは医学生やレジデントを対象とした雑誌に連載したものであるが、単行本化にあたり一般の読者にも分かり易いように図や説明に手を加えてある。本書が皆さんの「免疫学に対するアレルギー」の特効薬となれば良いと願っている。

(なかうち・ひろみつ 基礎医学系教授)

## 電子ジャーナルの利用に関するアンケート調査の結果について

附属図書館では電子ジャーナルの利用状況を把握するとともに、今後の導入方針の参考とするために全教員を対象としてアンケート調査を実施しましたので、その結果を報告します。

アンケート調査期間：平成12年11月13日～平成12年12月15日

アンケート調査対象及び回収状況：

対象数：1,643名 回答数：662（回答率40.3%）紙による回答：488（73.7%）

Webのフォームによる回答：174（26.3%）

### アンケート調査結果：

1. 電子ジャーナルを利用したことがありますか。  
（複数回答不可）

2. 「いいえ」と答えた方へお尋ねします。利用していない理由は何ですか。（複数回答可）

はい	364
いいえ	298
利用できることを知らなかった。 今後は利用したい。	137
利用したい雑誌がなかった。	89
利用できることを知らなかった。 今後も利用する予定がない。	19
その他	75
合計	662

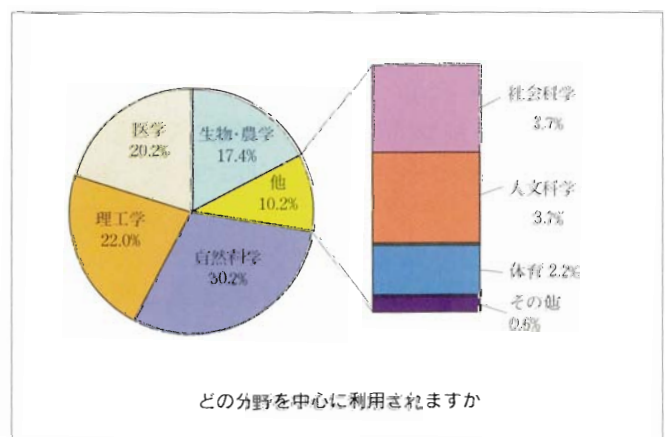
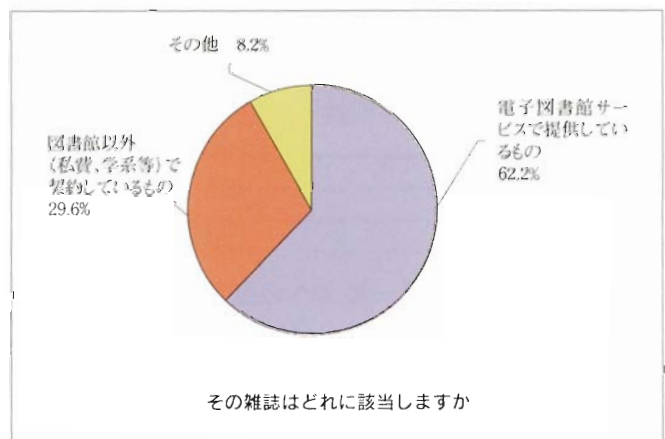
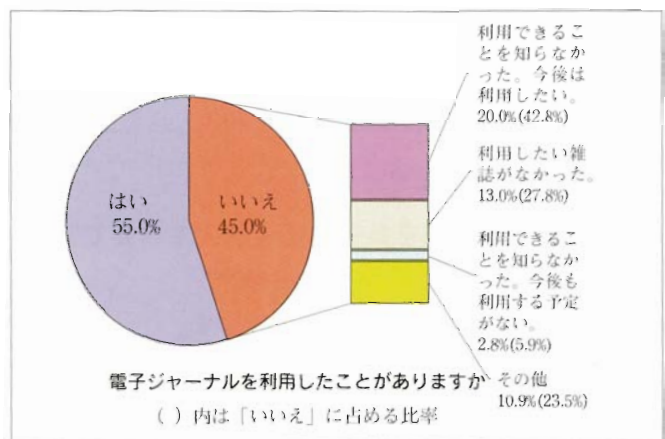
3. 「はい」と答えた方へお尋ねします。

①その雑誌はどれに該当しますか。  
（複数回答可）

電子図書館サービスで提供しているもの	305
図書館以外(私費、学系等)で契約しているもの	145
その他	40
合計	490

②どの分野の雑誌を中心に利用されますか。  
（複数回答可）

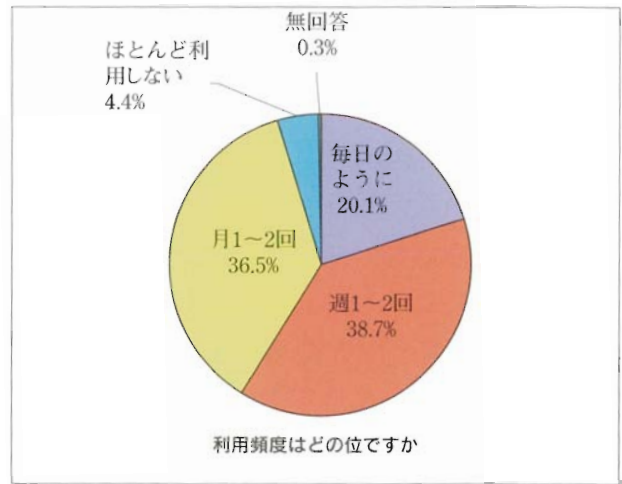
自然科学	196
理工学	143
医学	131
生物・農学	113
社会科学	24
人文科学	24
体育	14
芸術	0
その他	4
合計	649





③利用頻度はどの位ですか。(複数回答不可)

毎日のように	73
週1~2回	141
月1~2回	133
ほとんど利用しない	16
無回答	1
合計	364



4. 今後導入を希望する電子ジャーナルトップ10 (複数回答可)

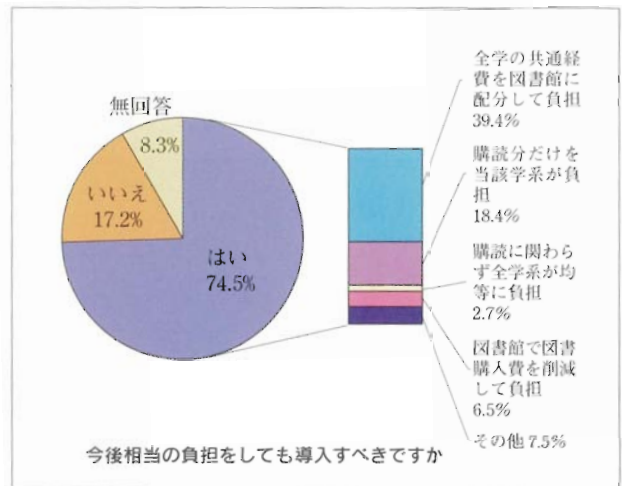
Elsevier Science : Science Direct	323 *
Nature : Nature Online	278 *
Springer Verlag : LINK	270 *
Oxford University Press	229 *
Academic Press : IDEAL	217 *
John Wiley & Sons : InterScience	186 *
Cambridge University Press : Cambridge Online	168 *
IEEE	120
Kluwer Academic Publishers : Kluwer Online	118
MIT Press	97

\*は現在利用可能なサービス

5. 今後相当の金額を負担しても導入すべきですか。(複数回答不可)

6. 「はい」と答えた方へお尋ねします。費用負担の方法についてどの案が最良とお考えですか。(複数回答不可)

はい	493
全学の共通経費を図書館に配分して負担	261
購読分だけを当該学系が負担	122
購読に関わらず全学系が均等に負担	18
図書館で図書購入費を削減して負担	43
その他	49
いいえ	114
無回答	55
合計	662



7. 電子ジャーナルサービスへの意見・要望 (回答数143) 主な内容

- ・積極的に導入してほしい (51)

将来のことを考慮して早急に電子ジャーナルサービスの導入を積極的に推進したほうが良いと思います。

- ・利用したことがないのでよくわからない (15)

今後発展する分野と思われるが、利用方法、負担金等についてよくわかりません。

- ・経費負担について (13)

特定学系に負担が偏るのはおかしい。必要な雑誌は図書館で負担するというよりは大学でそろえるべき。

- ・冊子体も必要 (10)

今のところ積極的に活用する気にならない。目が疲れる。冊子体としての良さは捨てがたい。

- ・オンラインジャーナルのページについて (8)

分野別のインデックスがないため、どのような雑誌があるのか分かりづらいです。

その他46のご意見・ご要望をいただきました。紙面の都合上すべてを掲載することはできませんが、今後の電子ジャーナルサービス導入の参考にさせていただきたいと思っております。ご協力ありがとうございました。なお、電子図書館サービスで提供している電子ジャーナルは以下のページから利用できます。

URL <http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/online-j/>



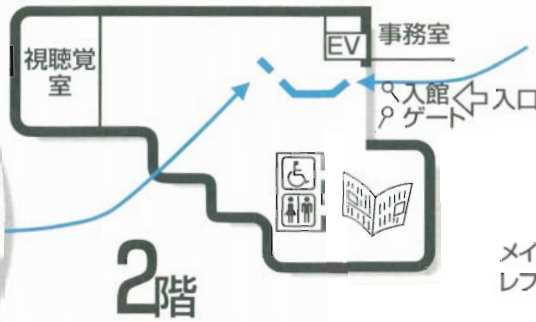


## 体育・芸術図書館

### レファレンスデスク

9:00~12:00, 13:00~17:00 (月~金)

- 本や雑誌の探し方を知りたい
- あるテーマについての資料を集めたい
- 電子図書館の利用の仕方がわからない
- オリエンテーションの申込みをしたい
- 他大学の資料を取り寄せたい
- 他大学の図書館を利用したい
- 図書館に置いて欲しい図書がある
- 他大学に頼んだ資料を受け取りたい
- マイクロ資料を利用したい
- コピー機がうまく動かない



### メインカウンター

9:00~22:00 (月~金),  
13:00~18:00 (土・祝)

- 図書館の利用全般について知りたい
- 本を借りたい・返したい
- セミナー室などを使いたい
- 落とし物をした・拾った
- ビデオ・CD・LD・DVDを利用したい

メインカウンター (0298) 53-2878  
レファレンスデスク 2865

### レファレンスデスク

9:00~12:00, 13:00~17:00 (月~金)

- 本や雑誌の探し方を知りたい
- あるテーマについての資料を集めたい
- 電子図書館の利用の仕方がわからない
- オリエンテーションの申込みをしたい
- 他大学の資料を取り寄せたい
- 他大学の図書館を利用したい
- 図書館に置いて欲しい図書がある
- 他大学に頼んだ資料を受け取りたい
- コピー機がうまく動かない

## 医学図書館

### メインカウンター

9:00~22:00 (月~金),  
13:00~18:00 (土・日・祝)

- 図書館の利用全般について知りたい
- 本を借りたい・返したい
- セミナー室などを使いたい
- 落とし物をした・拾った
- ビデオ・CD・LD・DVDを利用したい



メインカウンター (0298) 53-3256  
レファレンスデスク 3031

## 大塚図書館



### カウンター

- 開館時間内であれば  
なんでもここに聞いて下さい!

カウンター (03) 3942-6818  
5819



●利用できる時間は？

中央, 体育・芸術, 医学図書館  
 月曜日～金曜日 9:00～22:00  
 土曜日, 日曜日, 祝休日 13:00～18:00  
 ※体育・芸術図書館は日曜日休館

大塚図書館  
 月曜日 9:00～17:00  
 火曜日～金曜日 13:00～21:10  
 土曜日 13:00～19:50

※各館とも, 春季及び夏季休業中には開館時間が短縮されます。(p.10 開館日カレンダーをご覧ください。)

●入館するには？

図書館の入口には, 入館管理装置があります。装置のセンサー部分に身分証のバーコードを読みとらせOKの表示を確認して入館してください。学生証・職員証を忘れずに！

●圖書の貸出を受けるには？

貸出を希望する図書に, 学生証か職員証を添えてメインカウンターに申し出てください。

・受付時間

中央, 体育・芸術, 医学図書館  
 月曜日～金曜日 10:00～20:00  
 大塚図書館  
 月曜日 10:00～17:00  
 火曜日～金曜日 13:00～21:10  
 土曜日 13:00～19:50

※春季及び夏季休業中には受付時間が短縮されます。

●圖書の配置 各図書館

請求記号	主題	中央	体芸	医学	大塚
000	総記	3F	4F	2F	1F
Z00-007	情報科学	5F			
100	哲学	3F	3F	1F	
200	歴史				
300	社会科学	4F	3F	2F	
400	自然科学	5F			
500	技術・工業	4F	3・4F	2F	
600	産業				
700	芸術	3F	4F	2F	
800	言語				
900	文学				

中央図書館1階には, 東京教育大から引き継いだ図書が置いてあります。OPACで検索できるように, データを作成しているところです。1973年以前の発行の図書は, 1階にあるカードや冊子体の目録でも探してみてください。  
 [Zと数字2桁]で始まるものは, 数字の部分を上表にあてはめて探して下さい。

\*請求記号の見方\*  
 [S2L.66-K6s86-1] →



●貸出冊数および期間等

学群学生	5冊	3週間
大学院学生	10冊	〃
教員	30冊	〃

※返却期限を過ぎて図書を返却した場合には, 貸出が一時受けられなくなります。

・一般貸出されている図書に対して, 貸出の予約が出来ます。詳しくは利用案内をご覧ください。

●図書館の図書や雑誌のコピーをとるには？

複写機そばに設置されている申込書に記入してコピーしてください。料金は1枚10円です。

なお, 教職員の校費扱いのものについては予算登録による専用カードが必要になります。詳しくは相互利用係(2373)までお問い合わせください。

●オリエンテーション案内

図書館では, 前期(4月～6月頃)と後期(9～10月頃)の2回に分けて, TULIPS(電子図書館), 文献の探し方などのオリエンテーションを行っています。ご希望の方は, 各図書館のレファレンスデスクまでお申し込みください。

●雑誌の配置 中央図書館

中央図書館雑誌分類	新着雑誌	製本雑誌1970～	製本雑誌～1969
A 総合・ジャーナリズム・図書館・家政	2階	新館 3階 (人文)	1階
B 哲学・思想・倫理学・宗教			
C 歴史・伝記・風俗・民俗			
D オリエント学			
E 芸術・スポーツ・娯楽			
F 語学・文学		新館 4階 (社会)	
G 社会科学一般・政治・法律・軍事			
H 経済・財政・商業			
I 産業一般・農林水産業・交通・通信			
J 社会学			
K 教育学・心理学	2階	本館 新館 最近 7年分 7年分以前	
L 統計			
Ma EC刊行物			
Mb FAO刊行物			
Mc OECD刊行物			
Md 国連刊行物		5階 (自然)	
N 自然科学一般			
O 数学			
P 物理学			
Q 化学			
R 天文学・地学(人文地理を含む)	未製本分 2階	製本部分 1階	
S 生物学・動物学・植物学			
T 医学・薬学			
U 工学			
V 電気工学・情報工学			
X-1 大学等紀要(大学別)			
X-2 政府関係機関刊行物(機関別)			
X-3 都道府県刊行物(都道府県別)			
X-4 一般受贈誌			
無印 本学関係資料		本学関係資料室	
カナダ資料		新館 3階	

こちらも参照してください

<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/reference/haichizu/loc-chuo.html>  
<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/reference/haichizu/loc-taigei.html>  
<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/reference/haichizu/loc-otsuka.html>

# 平成13年度筑波大学附属図書館開館日カレンダー

## 中央・体芸・医学図書館

4月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

5月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

6月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

7月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

8月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

9月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

無印 9:00~22:00  
 中央・体芸 9:00~17:00  
 医学9:00~20:00

13:00~18:00  
 中央・医学 13:00~18:00 体芸休館  
 休館

## 大塚図書館

4月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

5月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

6月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

7月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

8月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

9月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

無印 13:00~21:10  
 9:00~17:00  
 13:00~19:50  
 休館

※ 臨時休館等の場合は掲示でお知らせします。





## 国立大学図書館協議会シンポジウム・ 関東地区国立大学附属図書館職員研修会

第13回国立大学図書館協議会シンポジウムは、「オンラインジャーナルの導入と外国雑誌収集のあり方」をテーマとして、東地区は筑波大学を会場とし、西地区は名古屋大学を会場として開催されました。東地区では、第34回関東地区国立大学附属図書館職員研修会も同時開催されました。ここでは東会場の概要を報告します。

なお、西地区の開催状況も含めて各事例報告、質疑応答等の詳細につきましては、「大学図書館研究」に掲載される予定です。

### 〔日程等〕

#### 1 開催期日

平成12年11月21日（火）～11月22日（水）

#### 2 会場 筑波大学大学会館特別会議室

#### 3 シンポジウム参加者31大学等から35名

研修会参加者 11大学等から14名

(11月21日)

基調講演：「オンラインジャーナルの導入と外国雑誌収集のあり方」

東京工業大学附属図書館事務部長 大埜浩一

○サブテーマ1：外国雑誌の収集と提供

・事例報告

〔総合大学図書館における外国雑誌の収集と提供〕

北海道大学附属図書館情報管理課

雑誌受入掛長 片山俊治

〔医科大学における外国雑誌の収集と提供〕

山梨医科大学附属図書館教務部図書課

情報管理係長 金丸芳美

〔外国雑誌センター館における収集と提供〕

東京工業大学附属図書館情報管理課

雑誌収集掛長 堀松恵美子

(11月22日)

○サブテーマ2：オンラインジャーナルの導入と契約

・講演「オンラインジャーナルの出版と価格の動向」

窪田国際事務所所長 窪田輝藏

・事例報告

〔群馬大学におけるオンラインジャーナルの導入〕

群馬大学附属図書館情報管理課

学術情報係長 瀧澤憲也

〔IDEALオープン・コンソーシアムの共同利用に

ついて〕— JIOC/NUを中心に—

千葉大学附属図書館情報管理課長 平元健史

〔大学と高専のオンラインジャーナルの共同利用〕

長岡技術科学大学附属図書館教務部図書課

目録情報係長 島影昭児

〔東京大学におけるオンラインジャーナルの取り組み〕

東京大学附属図書館情報管理課

資料契約掛長 藏野由美子



### 〔開催概要〕

第1日目には、東京工業大学附属図書館の大埜浩一事務部長から、メインテーマにも掲げられています「オンラインジャーナルの導入と外国雑誌収集のあり方」と題して、基調講演をしていただきました。2日目には、「オンラインジャーナルの出版と価格の動向」と題して、窪田国際事務所の窪田輝藏所長に講演をしていただきました。

シンポジウムでは2つのサブテーマが設けられ、初日は「外国雑誌の収集と提供」ということで冊子体に視点を置きながら、オンラインジャーナルも視野に入れて外国雑誌の現状を考えるという内容でした。2日目には、「オンラインジャー

ナルの導入と契約」という、今日、最大の問題となっている部分に焦点をあて、問題解決に向けて検討を行っていくという内容でした。両日を通じて、さまざまな事例報告や情報交換が活発に行われるとともに、全体討議では、各大学で最大の懸案となっているオンラインジャーナルの契約問題に話題が集中しました。

また、関東地区国立大学附属図書館職員研修会は、国立大学図書館協議会シンポジウムと合同で開催されましたが、質疑応答や討議は同じ会場において行い、個別討議は別会場において行うという従来と異なった形式になりました。

以下、基調講演の概要等を記載しますが、事例報告は紙面の都合により省略しました。



#### (大笠事務部長基調講演概要)

外国雑誌、特にオンラインジャーナルを検討するときに重要となる視点や外国雑誌センター館の現状などを中心に講演をしていただきました。外国雑誌センター館の役割と収集計画、外国雑誌購入数低下の原因、オンラインジャーナルの普及とその影響・効果、予算獲得の方策と意思決定や調整、オンラインジャーナルの利用者教育についてなど、大学図書館の今後の対応を示唆される内容でした。

課題として、契約方式や価格体系が不統一であ



ること、新たな継続的な出費増を誰が負担するか、出版社との交渉に手間がかかること、サイトライセンス契約が困難、ユーザインターフェイスが不統一である、効果的なユーザ教育の開発、導入効果を測定することが困難、アーカイブの利用保証が不安、ILLに使用できるかどうか、コンソーシアム契約が認められないなど多くの問題点を指摘されました。また、IDEALやSD-21に対する各地区での取り組みの状況、契約上の制度改善の動きや出版社への積極的な働きかけなど最新の情報も紹介されました。

#### (窪田所長講演概要)

オンラインジャーナルの出版と価格の動向について、図書館や出版社、研究者の対応がどうであったか、図書館職員と違った視点から講演をしていただきました。

急速な電子化の動きに対して、出版社自身も変革を迫られている現状と既にその変貌が現れている部分（ビジネスモデル）について、さらに、紙と電子の両方が求められる市場やアメリカにおけるILLシステムの構築とそのバックグラウンドについて、今後の価格動向は、紙と電子のアウトプット量が均衡する時が何時であるかという予測にかかっていることなど興味深い内容でした。

最後にユーザも出版社も過渡期でどのようにシフトするか模索中である今、図書館がイニシアティブをとり、新しい試みを行い、学術研究に、そして仕事にも大きなインパクトを与えるために、ビジネスマインドが図書館に求められていることを指摘されました。





## (第1日目の質疑応答・討議・講評)

NatureやScienceなどのオンラインジャーナルの扱い、特に購入費の問題や出版業界の動向、学内での対応状況などについて積極的な意見交換が行われました。また、外国雑誌センター館におけるコアジャーナルの基準や保存図書館構想についても質問がありました。さらに、利便性と価格の関係、カバーする範囲やバックファイルの維持について、図書館としてどのように対応していくかなどの問題も指摘されました。今後、積極的にトライアルと利用者教育を行うことにより、電子ジャーナルに対する理解を深めていくことが特に重要であるということも確認されました。



全体討議終了後、1日目のまとめとして、各コメントータから講評をしていただきました。堀松恵美子氏からは、重複製本雑誌や紀要類の廃棄によるスペース確保や保存問題について、片山俊治氏からは、電子ジャーナル導入の費用分担や図書館のイニシアティブについて、また、大埜浩一事務部長からは、電子ジャーナル導入の予算確保とそのためプロセスについて、特に上層部の役割と問題意識の重要性についてご指摘をいただくとともに、電子ジャーナルの流動的な現状についてまとめをしていただきました。



## (第2日目の質疑応答・討議・講評等)

電子ジャーナルの調査方法や契約方法、学内での協議方法などについて、特に購入方法については、会計法との問題がクローズアップされました。今後、最新の情報を入手するための方策やスムーズな情報の流れをつくることの必要性についても指摘されました。

全体のまとめとして、窪田所長から、2日間にわたる講演や事例報告などを通じ、日本の図書館職員の電子ジャーナルに対する取り組みについて賞賛をいただくとともに、今後の学術情報の動向と情報サービスのあり方についてコメントをしていただきました。

最後に、司会の小西情報システム課長（筑波大学附属図書館）から、「紙や電子の媒体に関わらず、学術情報を確保し提供するという図書館の役割を積極的にとらえ、先導的な役割を担っていることを認識し、このシンポジウムで指摘されたさまざまな問題が解決されることを待つことなく、時代の流れに遅れないよう取り組み、自分たちの築きあげる世界を早期に見出す必要がある。」とまとめをしていただき、閉会となりました。



この度は、国立大学図書館協議会シンポジウムと関東地区国立大学附属図書館職員研修会が合同で開催されましたが、現在どこの大学においても最大の関心事となっている、オンラインジャーナルの導入をどのように進めていくかという共通テーマのもとに、全国的な見地から参加者全員が積極的に取り組むことができ、多大なる成果をあげることができた2日間でした。

## 図書館実務研修を終えて

矢島 良子

茨城県立医療大学では、図書館業務全般に関する知識を深めるため、平成7年の開学時から毎年、筑波大学附属図書館の実務研修に職員が派遣されています。\* 7人目の研修生となる私は、平成12年10月2日（月）から12月15日（金）までの2か月半にわたり、中央図書館にて選書・受入業務を中心に図書館業務全般を、医学図書館にてサービス業務を実習させていただきました。

初日に筑波大学の図書館を案内していただいたとき、広い館内、あらゆる主題にわたる膨大な資料や多数のコンピュータ機器、そして利用者の多さに圧倒されてしまいました。推進されている電子図書館は、便利で使い易いうえに、さまざまな内容が盛り込まれており、とても興味深いものでした。また、提供されているサービスの多さにも驚かされました。筑波大学附属図書館は、利用者のどんな要望にも答えてくれそうなパワーを感じる図書館でした。

研修ではたくさんの経験、発見がありました。たとえば、レファレンスデスクで研修を受けていた時のことです。OHP用紙へのコピー操作が分からず困っている方がおられたので、実際にコピーをして使い方をお教えしたところ、しばらくして先ほどの方がわざわざレファレンスデスクまでいらして、とても嬉しそうな表情で微笑み、お辞儀をして帰られました。また、利用を希望されている資料を検索してさしあげ、所蔵されていることが判明すると、まるでガッツポーズでもしそうな勢いで喜ばれる方もおられました。私まで嬉しく、充実した気持ちにさせてくれました。

こんなこともありました。同じ本が3冊所蔵されており、どれも貸出されていないのに書架で見つからない、と申し出られた方があり、さっそくOPACで所蔵を確認したところ、間違いないので一緒に書架へ行き探してみると、所定の請求記号の棚に、確かに3冊がきちんと並んでありました。背表紙に書名がくずし字で印刷されていたた

めに、見逃してしまったようです。その方は最初は目を丸くして驚いておられましたが、すぐに恥ずかしそうに「レファレンスデスクに行ってよかったです。ありがとうございます。」とおっしゃってくださいました。

利用者の方が、希望の資料に辿り着くことができ、図書館に来た目的を果たし、いつも満足した気持ちで帰ることができたら嬉しいと思いました。図書の購入が担当の私は事務室にすることが多く、利用者がよく見えていなかったように思います。レファレンスでの研修の出来事は、利用者を身近に感じ、図書館員は利用者を支援する大切な役割があると改めて教えられました。今までは「図書館の本を買う」とだけ考えていたのですが、これからは「利用者に使ってもらおう本を買う」に変更します。利用者の強い味方になれるように心がけていきたいと思っています。

今回の研修では、個々の業務のなかで、現在の処理方法に至るまでの経緯や、今まで解決してきた問題点についても詳しく説明していただきました。そして、私が職場で疑問を抱いていたこと、処理に困っていたことについてもご意見をお聞きでき、担当業務以外についても知識を増やすことができたので、視野を広げる良い機会となりました。

職員の皆様には、お忙しいなか、たいへん親切にご指導いただきありがとうございました。整備途上の小規模図書館にいる私には、見ることも聞くことのすべてが刺激的なものばかりで、わくわくする日々の連続でした。教えていただいたたくさんの方のことを、これからの仕事に生かしていきたいと思っています。

(やじま・よしこ 茨城県立医療大学事務局総務課  
図書館係)

\*筑波大学附属図書館では、平成7年に「筑波大学附属図



『書館実務研修実施要領』を制定した。その目的は、次のとおりである。

筑波大学附属図書館実務研修（以下「実務研修」という。）は、他の大学又はこれに準ずる教育・研究機関（以下「他大学等」という。）において図書館業務に従事する職員に対し、本学附属図書館（以下「附属図書館」という。）において図書館業務を経験させることにより、図書館業務に必要な広い見識と高度な実務能力の育成を図り、もって他大学等の学術情報の流通促進に寄与することを目的とする。



## とぴらくす

### 〔学内〕

#### 第233回附属図書館運営委員会（12月開催）

〔審議事項〕 ○附属図書館長候補者の選考に係る意見書について、ほか

〔報告事項〕 ○附属図書館ボランティアとの懇談会について○第13回国立大学図書館協議会シンポジウム及び第34回関東地区国立大学附属図書館職員研修会について○国立大学図書館協議会理事会（平成12年度第3回）について○電子図書館システムの更新について、ほか

#### 第234回附属図書館運営委員会（1月開催）

〔審議事項〕 ○平成13年度附属図書館年次計画案の策定について○貴重図書及び準貴重図書の指定について、ほか

〔報告事項〕 ○ボランティア専門委員会、ほか

#### 第235回附属図書館運営委員会（2月開催）

〔審議事項〕 ○平成13年度附属図書館年次計画案の策定について、ほか

〔報告事項〕 ○大塚図書館委員会○電子図書館専門委員会○電子ジャーナルの利用に関するアンケート調査について○旧東京教育大学重複図書の教員特別貸出枠外特例貸出の実施結果について○中央図書館照明工事及び医学図書館屋上防水工事について、ほか

## 掲示板

### Journal Citation Reports(JCR)の検索について

平成12年12月からJournal Citation Reports (JCR)がネットワークで利用できるようになりました。利用できるデータベースはScience editionの1999年のものです。

利用できる端末

- ・学内LAN(筑波キャンパス)に接続されている
- ・Windows95, WindowsNT3.51 Workstation以上
- ・Microsoft Internet Explorer 2.0以上または Netscape Navigator 2.0以上のブラウザをえること

### DVDが利用できるようになりました

中央図書館、体芸図書館、医学図書館でDVDが利用できるようになりました。

新着ソフトを何点かご紹介しましょう。

#### <中央>

大藤信郎賞受賞短篇アニメーション全集 全8巻／映像文化製作者連盟

日本アニメ史の創世者大藤信郎を記念して設けられた「毎日映画コンクール《大藤信郎賞》」の受賞作品のうち、短篇作品を完全集成し、更に受賞作家のインタビューなども収録したディスク集。大藤自身の作品「くじら」「幽霊船」も併録されています。

問い合わせ先：

中央図書館視聴覚メディア室（内線2365）

体育・芸術図書館メインカウンター（内線2878）

医学図書館メインカウンター（内線3256）



くじら

#### <体芸>

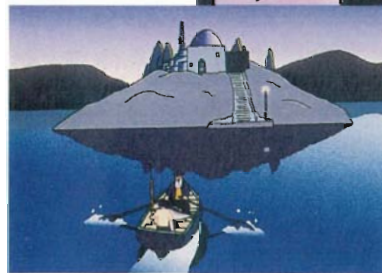
日本空からの縦断 2枚組／電通

与那国島から宗谷岬まで、約6,000Kmを高度3,500mから眺める日本縦断旅行が体験できます。美しく迫力ある映像はまさに動く地図。マルチアングル（ズーム映像）により低空飛行の気分も味わえます。

#### <医学>

E R 緊急救命室 ファースト・シーズン vol.1~7

緊迫感あふれる救命救急の現場をリアルに描く大ヒットシリーズ。医学英語の学習にも是非お役立てください。続編も近々入荷予定。



ある街角の物語

©手塚プロダクション

銀色の魚©1993 SPE Visual Inc / Sony Corporation

©1993 TAMURA SHIGERU Inc